

『よさ、とりえ、輝く個性を伸ばし、笑顔あふれる学校』



長野中だより

学校教育目標

よく考え進んで学ぶ生徒
誠実で思いやりのある生徒
心身ともにたくましい生徒

平成29年7月1日発行 第4号 行田市立長野中学校 TEL 048-554-2240
ホームページアドレス <http://www.gyoda-naganochu.ed.jp/news/>

健やかな成長のために

校長 漆原 亮

過日、新聞社説に次のような文章が掲載されていました。

10代の活躍がめざましい。将棋では史上最年少でプロとなった14歳の藤井聡太四段がデビューから23連勝中だ。卓球では13歳の張本智和が世界選手権男子シングルスで準々決勝に進んだ。

女子シングルスで48年ぶりの銅メダルを手にした平野美宇も17歳、女子ダブルス銅の伊藤美誠、早田ひなは16歳だ。若者が躍動する姿はさすがしく、社会全体が明るくなる。若い才能の開花が日本の元気につながることを改めて認識させられる。

今、10代の活躍が頻繁にマスメディアに取り上げられています。10代の潜在的な才能があちこちで開花してきているようです。

ところで、相田みつをの著作「おかげさん」の中に次のような一節があります。

木の芽が のびるのは やわらかい から

やわらかいところ

木の芽がのびるのは やわらかいから 若葉がひろがるのは やわらかいから
かすかな風にも 竹がそよぐのは 竹がやわらかいから
年を取って困るのは 足腰ばかりではなくて 頭が固くなることです 心が固くなる
ことです
やわらかいところを 持ちたいものです いつまでも心の若さを 保つために

後半の部分は何とも耳の痛いところですが、前半の部分は、生き生きと伸びていく子供たちの姿が目に見えます。

まさしくここに歌われているように、10代は可塑性に富み、生活環境、周囲の関わり、指導・教育、経験によって、コミュニケーション能力、社会性、情緒面、行動面、認知面、運動面と多面的に能力の成長、改善を図ることができます。「鉄は熱いうちに打て」の格言のように、鍛えて有用な形に作りあげる、『のび盛り』の時期と言えます。

ここで気をつけなければならないのが、「どう鍛えていくか？」ということです。

かつてのバスケットボールのスーパースター、マイケル・ジョーダンはこう言っています。

「わかりやすい格言を紹介しておこう。何事をなすにも、正しい方法と間違っただ方法があるという格言だ。たとえば、毎日8時間シュートの練習をしたとしよう。もしこの場合、間違っただ技術で練習を続けていたとしたら間違っただ技術でシュートする名人になるだけだ。」

『徒然草』の中にも、「仁和寺にある法師、～」の段に『少しのことにも、先達はあらまほしき事なり（簡単なことでも、指導者というものが必要なのだ。）』と、我流でなく正しく導いてくれる指導者の重要性が述べられています。

42日間にわたる夏休みが待っていますが、この時期は自身の才能や力量を伸ばすのに格好の期間です。ご家庭でも、子供の持てる能力を磨き発揮させていくために、豊かなコミュニケーションを心がけていただければと思います。

7月行事予定

3	月	3年実力テスト
4	火	生徒朝会（長野鐘賞）、B短縮
5	水	北埼玉地区夏季大会1日目、3時間授業、給食なし
6	木	北埼玉地区夏季大会2日目、4時間授業、給食あり
7	金	北埼玉地区夏季大会体操、A短縮、声かけ応援団会議 10:00
8	土	資源回収 8:00 北埼玉地区水泳大会
9	日	資源回収予備日
11	火	専門委員会、水曜授業、A短縮
12	水	まきば園訪問、火曜授業、A短縮、⑤ 非行防止教室
13	木	1、2年PTA、午前A短縮、⑤ 1、2年授業参観
14	金	3年PTA、午前A短縮、⑤ 3年授業参観
18	火	給食終了、4時間授業 ⑤⑥カット
19	水	安全の日、AED講習 15:00 さくら・のぞみカレーパーティー
20	木	1学期終業式、学校保健委員会 15:00
21	金	夏季休業日、家庭訪問・三者面談(～8/4)
30	日	行田浮き城祭り、学級育成委員会補導



修学旅行初日(6/16)、建仁寺のご住職による法話がありました。その中で、
① 「心は養ってはじめて、豊かになる。」
② 「おいあくま(おこるな いばるな あせるな くさるな まけるな)」という訓話をいただきました。

また、座禅体験も行い、気持ちを落ち着けながらもご住職がそばまで来ると警策をいただくのではと、ドキドキ感も味わいました。

「すべきことをする」、 「やるべきことをやる」



職員室掃除の様子です。私語なく、仲間と協力してゴミをまとめたり、「掃く、拭く」を手際よくきちんと行って、見る見るうちにサッと整えてくれました。その作業風景を見ただけでもとても気持ちのいい仕事ぶりでした。

この掃除の様子を見て思い出されてくるのが、かつて新聞などに取り上げられた「新幹線劇場」と呼ばれ、米国の放送局では「ミラクル7ミニッツ(奇跡の7分間)」と絶賛された清掃作業です。

7分間の間に、新幹線車内を点検、清掃し、きちんとお辞儀をする作業員たちのキビキビした動きは、称賛に値するものがあり、とりわけホームから熱心に作業を見ている海外からのお客から大きな拍手と歓声があがったということです。

そこには「これだけやっていればいい」といった義務感での取組でなく、『誇り』や『生きがい』を感じ『やる気』を持った取組であることに気づかされます。

清掃活動という毎日のことも、前向きに、そして積極的に自分自身の務めを果たそうとする心がけは、必ず有意義な人間的成長につながっていくものです。

「些事(さじ)をおろそかにしない」その積み重ねが『非凡』を創る、そんなことを教えてくれる掃除風景でした。